

政府介入の機密組織に無限の性欲を持つ体に人体
改造された男 毎日組織に雇われた女たちとセッ
クスする日々



組織の基地を出たシゲトはトボトボと街をさまよい歩いた。

行くあてもなくただ“無限”の下半身を持って……。

基地での拘束によって感覚は狂い社会能力の多くを失い、お金も持たないシゲトに居場所はなかった。

時が経たぬうちにあっという間に性犯罪を犯してしまう。廃人へと落ちぶれたのだった。しかしその後、シゲトは刑務所で静かに余生をすごした。刑務所の心ある看守によって多種の経験をさせてもらい、シゲトは自分を取り戻していった……。

学生として楽しく過ごしていたある日、友人たちとの飲み会からの帰り道、突如複数人のスパイによって拉致される。黒い車で……。

連れ去られたのは基地。白い壁のはげ落ちた大きな建物。シゲトの住む街から遠く離れた街のはずれにあった。廃病院のような外観だった。スパイたちにされるがままシゲトは四肢の自由を失い、あやしい部屋に連れ込まれて注射針のようなものをスパイたちが持ったところまでは覚えていた。

その後、意識を失う……。

シゲトは極秘組織によっていわゆる人体改造をされた。どのような人体改造かというと、

無限の性欲を持つ体。

一日中射精し続けても体には何の違和感も問題もないというもの。

これはいくらでもセックスできることを意味する。

勃起したペニスは際限を知らない。脈打つその太い肉棒から、延々と泉のように出つづける。

股を広げた女たちを心から喜ばせることが出来る能力であった。

体内の神経伝達を特殊なものに変えるのである。元に戻すことは困難であるこの人体改造は一大実験であった。

この人体実験は、政府の一部によっても極秘で介入されていた。黙認されているその理由は情報を得るため。人の体がどこまで性に特化できうるものであ

るのか、ということのを要は裏の政府ぐるみで研究しているのである。

意識を失ったシゲトはしばらく昏睡のままの状態が続いた。意識を取り戻し、その後シゲトはしばらく実験として組織内部で過ごすことになった。いったい神経改造の結果のほどはいかなるものなのか？無限の性欲を持つ人間はいったいどのような状態になってしまうのか。

組織に雇われた大勢の女性たちとシゲトはセックスに励むこととなった。

「ああんっ！！いいっ！！いいのおっ！！すっごくびゅっ！！びゅっ！！
って何度も噴水みたいに精液出てくるのおっ！！」

————— 体験版は以上になります。—————